
ジョン ～杏の木の下で～

桐生星男

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ジョン　　杏の木の下で

【Nコード】

N3520D

【作者名】

桐生星男

【あらすじ】

私がジョンと出会ってから別れるまでのお話。

ジョンがいなくなった。

私が三歳さいになった日、仔犬このジョンが我が家わがやにやって来た。私が歩くと、ジョンは私のあとを一生懸命いっしょうけんめいついてきた。とてもうれしくてかわいくて、その夜私は、ジョンを腕うでの中に抱だいて眠った。

小さなジョンはどんどん大きくなった。私も大きくなった。ジョンは散歩さんぽが好きだった。ジョンはボール遊びが好きだった。ジョンのお気に入りの場所は、庭にわの杏あんずの木の下すずの風が気持ちよくて涼しいところ。

ジョンは私の気持ちをよく知っていた。悲しいときもうれしいときも。私たちはお互いたが、何でも知っていた。

なのに、いなくなるなんて。大好きだった、私の大切な、ジョン。

ジョンには苦手にがてなものもあった。雷かみなりだ。私も雷は苦手だったけれども大騒さわぎだった。笑ってしまうくらいに。だから雷の日は特別に私たちはジョンを、玄関の中へ入れてあげた。誰にだって、どうしても嫌きらいいなものってあるものね。

それなのに。あの日、私は友達との電話に夢中むちゅうちゅうで気が付かなかつた。雷が鳴なっているのも、ジョンが鳴ないているのも。ジョンは鎖くさりを噛み切かって逃げだした。ごめんね、ごめんね、ジョン。怖こわかったんだよね。

私たちはジョンの名前を呼び続けた。声を張り上げて、雨の中を必死に。声が枯かれてもまだ、ずっと遠くまで探した。だけどジョンは見つからなかった。ジョンは死んでしまったのかもしれない。ジ

ヨンは帰ってこないかもしれない。死なないで、帰ってきて、ねえ、お願い、ジョン。

次の日の朝。泣き腫^はらした目でぼんやり外を見てみると、ジョンがいた！ 雨で汚^{よご}れているけれど、うれしそうな顔をして一生懸命走ってくる。ああ、ジョン、帰ってきてくれてありがとう！ ジョンは何度も何度も、私の顔にキスをした。私もジョンをぎゅっと抱きしめた。ごめんね、ジョン。もう離^{はな}さない、これからはずっと、一緒^{いっしょ}だよ、ジョン。

あれから三年がたった。ジョンはきつと幸せだったと思う。陽^ひだまりが気持ち良くゆれる晴れた日の午後、ジョンは私の腕の中で眠るように死んだ。初めて出会った日の夜を私は思い出していた。涙がぼとり、ぼとりと落ちた。ありがとう、ジョン。ありがとう、ありがとう、ジョン。あなたに会えて、幸せだったよ。

庭^{にわ}の杏^{あんず}の木の下^{すず}の風が涼しいところの下で、今でもジョンは眠っている。いなくなっただんじやなかった。そうだよね。

ジョンは今でも私の心の中にいる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3520d/>

ジョン ~ 杏の木の下で ~

2010年12月7日03時42分発行